

8月の見通し 割安な資産はどこに？

割安な株式を見定める

世界的に景気が回復基調にある他、欧州中央銀行(ECB)や日銀の量的金融緩和政策が下支え材料となり、リスク資産は底堅く推移してきました。しかし、**相場の先行きに関しては警戒が必要**です。

なぜなら、株価上昇の勢いは鈍っており、景気回復のモメンタムも鈍化傾向にあるからです。

中期的には**世界経済が急激に悪化することはないと見ていますが、大幅な改善も見込み難い状況**です。世界経済の成長が頭打ちになるのであれば、企業業績の伸びも緩やかなものにとどまるでしょう。さらに、バリュエーションも魅力的な水準ではありません。多くのリスク資産は、歴史的に見て割高な水準で取引されており、特に年初来リターンが2桁に達する世界株式の割高感は強まっています。各国中銀の金融政策もリスク資産の上昇に歯止めをかける材料となりそうです。

明るいのは欧州、日本、新興国株式

これまで株式市場は目を見張るほどのパフォーマンスを示してきました。しかし、そろそろ**業績の裏付けを取るべきタイミング**に差し掛かっています。

企業業績への期待が特に高いのは米国で、市場予想に満たない結果となった場合には失望売りが入るリスクも大きいことを意味しています。2018年の増益率は+12%と予想されており、利益率も高水準が期待されています。

国際通貨基金(IMF)は米国の経済成長見通しを+2.1%まで引き下げており、ピクテのエコノミストチームもより警戒的なスタンスを強めています。**経済成長の鈍化やバリュエーションの水準を勘案し、米国株式にニュートラル(中立)のスタンスを取ることとします。**

一方、**欧州と日本にはより明るい見通しを持っています。**

景気の改善が続いていることから、ユーロ圏株式には特に強気の見通しです。日本株式はバリュエーションが相対的に割安な水準にある他、日銀の量的金融緩和策がリスク資産の下支え材料となる点がプラスの材料です。

新興国株式の2018年予想PER(株価収益率)は11.8倍*であり、長期的な視点でリターンを提供してくれる資産クラスであると見ています。業種セクターで投資妙味があるのは電気通信サービス、エネルギー、金融セクターです。

*ピクテ・グループより

新興国国債に投資妙味

債券では、現地通貨建て新興国国債のオーバーウェイト(強気)評価を継続します。**新興国経済は依然として堅調で、インフレ率も落ち着いた水準**にあり、各国中央銀行は緩和的な金融政策を維持することが可能となっています。例えば、ブラジルでは1年前は9%程度であったインフレ率が3%まで低下していることから、ブラジル中央銀行は政策金利を1%引き下げて9.25%としました。米国国債利回りがさらに低下し、ドル安基調が続くようであれば、現地通貨建て新興国国債にとっては追い風となります。

新興国国債にはバリュエーション上の投資妙味もあります。ハイイールド債券と利回りを比較すると、米ドル建ては6%弱、ユーロ建ては3.2%程度に対して、現地通貨建て新興国国債の利回りは6%超の水準です。

当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の対象ではありません。登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。